

復興のため 福島さんを 県政に送りたい



高橋 誠さん
すし店経営
八軒中同窓会元会長

サンピアの避難所で、チラン寿司300食を一緒につく

りました。福島かずえさんが、被災者の方々に献身し、縁の下で手際良く動く姿を見て、胸が熱くなりました。わたしは、共産党には縁がありませんが、この人に復興を託したい。

農業再生へ絶対必要な人

遠藤 喜一さん
専業農家(三本塚)

農業被害は甚大ですが、いま前へと進んでいます。津波をかぶった塩害の畑で、試験的に植えたレタスやキャベツなど野菜が収穫できました。

3月11日以来、福島さんや庄司あかりさん(市議)の応援を受け、やる気を奮い立たせがんばってきました。泥だしまでやってくれたんです。

福島さんは、仙台市議会のなかで農業を一番勉強していて、本気さが見えます。ぜひ、県政に送りたいです。



日本共産党仙台市議
庄司あかり

福島さんをなんとしても県政に送り、2人でがんばります。

「トイレの神様」を歌うと泣けてくる…

祖母に重ねる女性たちの未来

わたしの祖母は、明治生まれ、ゴム会社の工場に働いていました。幼かったわたしは、どこへ行くにも祖母といっしょで、まったく「トイレの神様」の世界でした。祖母は「女も手に職を」が口癖でした。自立した人間として生きることを願ったんですね。

20年前、わたしが仙台市議に初当選したのを見届けて、祖母は息をひきとりました。以来わたしは、男女平等をめざす市民運動に積極的に参加してきました。女性がひとりの人間として尊重され、認められること。それは男女を問わず、人間が一人ひとり大切にされる社会に通じています。



福島かずえ

プロフィール▶1960年若林生まれ。臨時教員、宮城県映画センター職員を経て、仙台市議5期。日本共産党仙台市議団長など歴任。現在、日本共産党宮城県震災対策副本部長。八軒中、宮城二女高、宮城学院女子大卒。家族は、夫と両親。好きな言葉「花には太陽を くちびるには歌を 子どもたちには平和を」



暮らしと農漁業、地域経済の復興に

すぐ役立つ

市議20年 キャリアと実力

福島かずえを
日本共産党 前仙台市議
県政へ

日本共産党の見解を紹介します。
2011年 9月 24日
新みやぎ社
仙台市青葉区
一番街17-12-25
022-25711511